

ごあいさつ

聖隷クリストファー大学保健福祉実践開発研究センター年報第6号(2014)の刊行にあたり、ご挨拶させていただきます。

当センターの活動は、2015年度の現在7年目に入っており、当年報では2014年度の実績を報告しております。

地域の実践現場とともに共同で行う「研究」に重点を置き、その研究成果を地域へ還元することを目的にした2014年度の地域貢献事業研究費の採択数は6件でした。2013年度から、募集時に対象となる事業研究の考え方と1件あたりの配分上限額、および審査基準を明確にしたことで、今回もレベルの高い内容の事業研究と適切な配分ができたと考えております。この6件の事業研究の報告書は当年報に掲載しております。また、研究成果の報告会は例年11月に行われます聖灯祭・ホームカミングデー同日にポスター形式で行っており、地域の皆様や卒業生にご覧いただくと共に、採択された研究代表者によるプレゼンテーションも行います。

公開講座につきましては、時勢やニーズに合ったテーマ設定をし、テーマに応じた適切な集客目標を立てて、2014年度は専門職向けの公開セミナーを2回、一般の方向けの公開講座を2回実施しました。公開講座ではテーマに沿って高名な講師をお招きし、ご講演をお願いしております。受講者数は年々増加して目標を超える集客ができ、受講者の満足度も高い結果が得られました。今後も引き続き、専門職向け、一般の方向けともに皆様のニーズに応えられる講座を開催していきます。

地域の専門団体や施設、行政から当センターへの講師や委員の派遣依頼は年々増加しており、地域で果たす大学の役割を拡大することにつながり、大変喜ばしいことと感じています。教員が、講師として派遣依頼に応じた実績は、ホームページでも公開しています。講師等の派遣につきましては、保健福祉実践開発研究センター事務局にお問い合わせください。

また、2014年度は、「政策形成への関与」といたしまして、浜松市の保健医療福祉等の担当者との意見交換を行いました。これらを基に、今後どのように、保健福祉実践開発研究センターが、政策に関与できる可能性があるのか、引き続き検討してまいります。

これからも保健福祉実践開発研究センターが地域の皆様から必要とされ、“地域と歩む”実践・研究を続けてまいる所存です。皆様のご支援ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

2015年11月

聖隷クリストファー大学
保健福祉実践開発研究センター
センター長 大場 義貴